

令和元年度陸奥湾マダラ稚魚分布調査結果について

水産総合研究所では前年に引き続き、2019年4月21～22日、5月15～16日、6月11～13日の3回、それぞれ青森県陸奥湾の8調査点で試験船青鵬丸(65トン)のオッタートロール海底曳によるマダラ稚魚の分布調査を行いましたので、結果をお知らせします。

マダラ稚魚の採捕尾数は、4月は採捕なし、5月は1,408尾、6月は193尾と、5月に最も多くなりました。

図1に5月の地点別の分布密度を示しました。マダラ稚魚の分布密度はSt.5で18個体/1,000㎡と最も高かったものの、前年にSt.1で記録した525個体/1,000㎡を大きく下回りました。この他St.3を除く各調査点で分布が確認されましたが、いずれも低い密度でした。また、体長のピークはSt.2および5の42mmが最大でしたが、これは前年にSt.1で記録した56mmを大きく下回っていました。

陸奥湾ではマダラ稚魚の分布密度が高ければ、4～5年後の陸奥湾での漁況が良くなる傾向があります。青鵬丸による今年の調査では稚魚の濃密な分布が確認されませんでした。5月27～30日に同地点で行われた北海道大学の調査では比較的高い密度が確認されており、前年、前々年の高い稚魚豊度と合わせて考えると、今後も好漁が期待されます。来年以降も青鵬丸による調査データを蓄積し、そのデータを基に資源量との関係を明らかにし、漁況を見通すことが出来るよう取り組んでいきます。(資源管理部 三浦太智)

表1 地点別体長別漁獲個体数(マダラ) 単位: 個体

体長2mm	St. 1 N=470	St. 2 N=128	St. 3 N=0	St. 4 N=56	St. 5 N=453	St. 6 N=57	St. 7 N=169	St. 8 N=75
20								
22								
24								
26								
28	8					1	1	
30	13			7	2			
32	65			10	7	5	8	5
34	71			10	27	4	10	13
36	79	4		15	82	9	31	24
38	53	12		4	76	6	23	14
40	73	18		9	81	12	31	9
42	53	30		1	95	3	26	6
44	43	19			34	1	15	2
46	10	26			27	4	14	2
48	2	14			15	1	6	
50		4			3	8	3	
52					4	2	1	
54		1				1		
56								
58								
60								
計	470	128	0	56	453	57	169	75

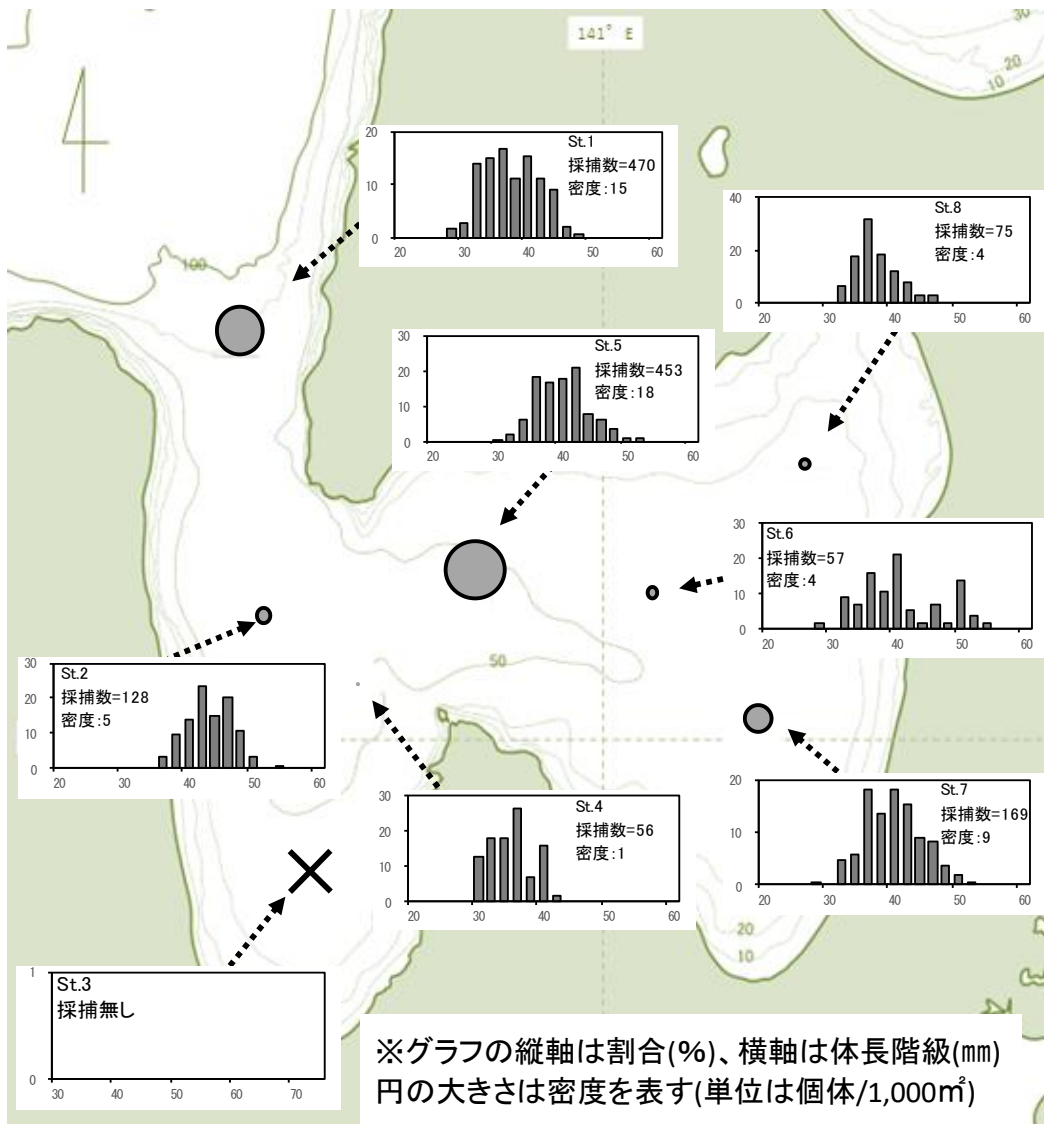


図1 陸奥湾マダラ稚魚分布密度と体長組成結果 (2019年5月)

(試験船青鵬丸によるオッタートロール)